

欲しいもの



mikatuki98

「あなたの欲しいものは何ですか？」

道行く人に尋ねる者が居た。

後から見ると猫のキグルミを着ているよう見える。

ところが、前から見ると目が白黒の縁取りになったパンダのような顔だ。

初めはみんな面白がって、声を掛けられると適当に応えていた。

「えっと、僕は彼女かな、へへへ」

「私はやっぱり彼氏！」

「ま、やっぱりお金っすかね」

「そうそう、お金お金！」

一週間ほど経つと、パンダの顔をしたネコと言うことで、

ネコパンという渾名（あだな）が付いていた。

「ネコパンさん、これ、差し入れです！よかったら食べて下さい」

女子高生がパンダの顔をしたパンを持ってきた。

ところが、ネコパンは女子高生がくれたパンを受け取った途端、地面に投げつけたのだ。

「きゃー！パンが……」

女子高生は半泣きだった。

通行人もイキナリ地面に投げつけられたパンに驚いている様子だ。

中には立ち止まって二人の様子を見守る通行人も現れた。

「……ひ、酷い！」

女子高生はやっと一言叫ぶと、目に涙をいっぱい溜めて走り去って行った。

ネコパンに周りから鋭い視線が降り注がれる。

と、その時、ネコパンが野次馬たちに向かって大きな声で叫んだ。

「わたしの欲しいものは、人間の顔だ！」

了